

# 令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立落合第二小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月8日】

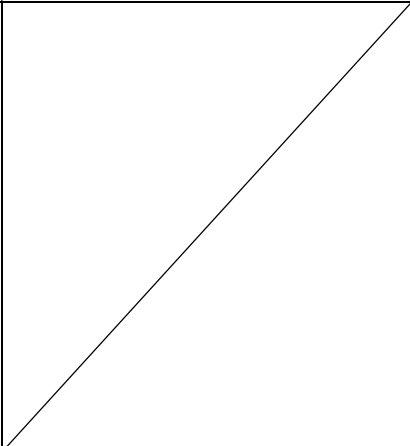
授業作り	<p>重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元における児童に身に付けさせたい力を教師が把握し、知識・技能の習得ができるようにする。そのために、児童が主体的に学習を進められるようにゴールイメージをもたせた授業づくりをする。また、児童が問題を解決するための手立てを教師が理解し、児童が自ら選択できる手立て（オプション）を考えた授業づくりに努める。また、「学び合い」の場を意図的に設定し対話や効果的な ICT 機器の活用を通して、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。</li> </ul>
環境作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室環境を整備し、時間の視覚化や学習の見通しを提示するなど、児童が学びやすい環境を整える。タブレット端末の活用、個に応じた教材の準備など、一人ひとりに応じた個別の配慮等、ユニバーサルデザインの視点で環境づくりを行う。</li> </ul>

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい平仮名やカタカナ、漢字、助詞の使い方を習得できるようにする。</li> <li>・話を最後まで聞く姿勢を身に付くようにする。</li> <li>・語彙を増やし、話したり、書いたりして適切に活用できるようにする。</li> <li>・10までの数、20より大きい数などは、具体物を活用して、数の構成を理解できるようにする。</li> <li>・文章問題で問われていることを理解し、自力で解けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の時間を中心に視写の機会を確保するとともに漢字の小テストを実施する。</li> <li>・話している人に体を向け、最後まで話を聞くよう継続指導を行う。</li> <li>・児童が見付けた言葉を「言葉の宝箱」に保存し、活用する。</li> <li>・計算カードやデジタルドリルの活用する。</li> <li>・文章を丁寧に読み、大切な場所にアンダーラインを引くなどの継続指導を行う。</li> </ul>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく漢字を読み書きし、習った漢字を文章に活用できるようにする。</li> <li>・テーマを設け、短い文章を簡単なまとまりに分けて書けるようにする。</li> <li>・拗音、促音、助詞など、言葉を正しく活用できるようにする。</li> <li>・10のまとまりや位を意識しながら、たし算やひき算を正確に解けるようにする。</li> <li>・文章問題を理解し、正しく立式する力を向上できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字を掲示するなどして、文章の中で使えるよう、ドリルなどを活用して繰り返し練習する。</li> <li>・助詞や句読点に注意を配りながら日記や作文指導を継続する。「作文帳」で出来事やテーマを決めて文章を書く。</li> <li>・音読練習や視写をするなど、正しい文章に触れる。</li> <li>・具体物の操作を取り入れた学習をする。</li> <li>・絵や図等で問題の場面を想起する場面を設定する。</li> </ul>

<p>3 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文に対して、自分の考えを詳しく文章にして書くことに課題がある。</li> <li>・文章を正しく読み取る力に課題がある。</li> <li>・漢字を丁寧に書こうという意識はあるが、既習の漢字を使う習慣が十分に身に付いていない傾向にある。また、正しい学習習慣が身に付いていない児童も一定数存在する。</li> <li>・文章問題を読み解く力が弱く、立式に課題がある。</li> <li>・計算問題におけるケアレスミスがやや目立つ。</li> <li>・計算などは得意だが、式の意味を言葉で表現するなど、論理的思考に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子を正確に読み取る力を伸ばせるように読書の時間など日常から小説などの物語を積極的に読む習慣を付けさせる。また、日々の学習でも読む活動、書く活動を多く取り入れる。</li> <li>・分からない単語や表現が出てきたら、調べる習慣が身に付くようにする。</li> <li>・日頃から習った漢字を使う習慣が身に付くようにする。音読や漢字の反復練習も丁寧にやる。</li> <li>・数をまとまりにして考えられるようにし、数字の意味を考える習慣が身に付くようにする。また、計算の反復練習を行い正しく計算できるようにする。</li> <li>・毎日の宿題や授業の終末にドリルを行い、計算力や数の概念に関する基礎を固めるようにする。</li> <li>・デジタルドリルや教科書のデジタル教材を積極的に活用したり、ブロック操作を取り入れたりして、数量の感覚を身に付くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドラインを引きながら前後の文章の関係性を考えて読むなど、中心となるキーワードを捉えさせる学習をする。</li> <li>・国語辞典の使い方の指導とともに、分からない語句を調べる時間を確保する。</li> <li>・「言葉の宝箱」を活用する。</li> <li>・毎日の振り返りを計画ファイルに書くことや、書きまるタイムを使った「書く」活動を積み重ねる。</li> <li>・繰り返りや繰り返り下がりのある筆算の仕方を丁寧に確認する。思考力を高める授業を進め、ノートに自分の考えを書く機会を多く取り入れる。</li> <li>・デジタルドリルやプリント等で反復学習を行う。</li> <li>・毎時間、自分の考えをペアやグループで説明する時間を取り入れる。</li> </ul>
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の書き取りについては、全国平均を上回り、定着しつつある。</li> <li>・漢字の読み取りについては、全国平均を若干下回った。</li> <li>・話すこと聞くことについては、全国平均を上回った。</li> <li>・書くことについては、習熟の差が大きく出ている。自分の考えの記述に関して苦手意識をもつ児童が多い。</li> <li>・全体的に全国平均及び区内平均を上回っている。ただ、習熟の差が大きい項目がある。</li> <li>・問題文に書かれた考えを完成したり、理由を説明したりする作業についても個人差が見られる。特に思考の部分に課題が残ることが分かった。</li> <li>・図形の領域で課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の書き取りについては、家庭学習等で繰り返し練習しているため、継続できるようにする。</li> <li>・漢字の読み取りについては、熟語の読み方や特別な読み方等、辞書を引く習慣が身に付くようにする。</li> <li>・書くことについては、苦手意識をなくすことを第一目標にしたい。自分の考えを詳しく、さらに簡潔に表現できるようにする。</li> <li>・習熟の差が広がっているため、引き続き反復練習を行い、知識技能の定着を図る。</li> <li>・すべての児童が、問題文の意味を正しく把握できるようにする。自分の考えや理由を説明できる力を養う。</li> <li>・図形領域に関しては、作図や測量の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい読み方や、意味の分からない言葉が出た際、辞書で調べるよう指導する。</li> <li>・熟語や特別な読み方の漢字に興味をもてるよう、言語活動の充実を努める。</li> <li>・書くことについては、ユニバーサルデザインの視点で授業づくりを行う。思考ツールや構成が分かるワークシートを用意し、自分に合った書き方を見付けることができるように指導する。</li> <li>・じっくりコースでは、基礎・基本の定着を図る活動を重視し、しっかり、ぐんぐんコースでは、既習事項を基に考える活動を重視するなど、習熟度に応じた指導を充実させていく。</li> </ul>

	<p>例えば直角三角形の作図については、直角三角形の定義を理解していない可能性がある。</p>	<p>活動を通して感覚を養っていけるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の領域に関しては、どのコースも丁寧に反復練習を行い、手順の意味を考えながら作図できるようにしていく。</li> </ul>
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>文学的な文章の読み取りについては、全国平均を上回った。</li> <li>漢字の読み書きや、漢字辞典の使い方、ことわざなど、言葉に関する事項は、区平均と比べて下回っており、定着に課題がある。</li> <li>文章の構成を読み取ったり、段落と段落の関係について考えたりすることについても区平均を下回っており、課題が見られる。</li> <li>分数については、全国平均を大きく上回っている。身近にあるものを表す適切な単位を選ぶ問題についても、全国平均を上回った。</li> <li>特に除法の場面で、数量の関係を式に表す問題は、全国平均を下回っており、式による表現に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した漢字を日常的に使うことができるようにする。</li> <li>多様な表現方法を知り、それらを積極的に用いて文章を書くことができるようにする。読み取ったことについて叙述をもとにしながら根拠を述べることができるようにする。</li> <li>導入の段階で文章題の内容を簡単な図に表すなど、問題の場面(意味)を正しく捉えることができるようにする。</li> <li>解き方を伝え合う活動を通して友達の解き方のよさに気づき、それを自分に活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストや反復練習を行う時間を計画的に設定する。</li> <li>辞書を積極的に活用する。</li> <li>感情や様子を表す言葉や表現を使うように指導する。</li> <li>優れた表現や文章を全体に共有する。</li> <li>根拠となる文章にアンダーラインを引かせ、考えを説明する活動を設定する。</li> <li>具体物を想起させるなど、実感の伴った理解ができるような学習活動を行う。</li> <li>既習事項を想起させることで、それを生かした課題解決につなげる。</li> <li>解き方を説明し合うペア活動やグループ活動を計画的に設定し、実践する。</li> </ul>
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科「話すこと・聞くこと」の領域では、児童の得点が区平均を上回って推移していた。相手の意見を受け止め、自分の考えを分かりやすく伝えようとする姿勢が日常の授業で育まれており、話し合い活動の積み重ねが成果として表れている。</li> <li>漢字の読み書きについては区平均を下回る結果となった。基礎的な語彙力や文字の正確な定着に課題が見られ、文脈の中で漢字の意味を捉える力や書字の正確さにばらつきがあることが示唆された。</li> <li>日常的な漢字学習の質や量を見直し、基礎的な読み書きの力を確実に定着させる指導の充実が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちがつまづきやすい漢字を把握し、一人ひとりに応じた練習や声掛けを行うことで、読み書きの正確さを高める。</li> <li>読書の機会を増やし、日常的に漢字に触れる場を広げることで、漢字を読む習慣が身に付くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や読み物教材から学習漢字を含む文を抜き出し、文脈から意味を推測する短時間学習(5分テスト)を週に数回取り入れる。</li> <li>小テストやノートの誤りを分析して児童ごとの重点漢字リストを作成し、個別プリントや机間指導での声掛けを</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の学力定着度調査によると基礎的な計算問題の習熟の差が大きい。</li> <li>・習熟が必要な児童は、分数や小数の計算など複雑な手順が必要なものについての誤答が多い。</li> <li>・文章問題や応用問題の文意を容易に解釈して立式してしまい、誤答につながる場面が多い。</li> <li>・自分の考えを相手に伝えたり友達の考えを聞いたりして自分の学びを深める力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み書きについて、書いて覚えるだけでなく、文章の中で意味を考えたり実際に使ったりする活動を増やし、より確実な定着を図る。</li> <li>・既習の計算を確実に正確にできるようにする。</li> <li>・文章題では何を問われているのか、問題から正しく読み取り、解決ができるようにする。</li> <li>・友達との学び合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりし、多様な解き方に触れ、よりよい解決方法を見付けられるようにする。</li> </ul>	<p>計画的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書や学級文庫の活用を強化し、学年に合った本を定期的に紹介して、日常的に漢字に触れる時間を確保する。</li> <li>・デジタルドリルやプリントを活用した反復学習を行う。</li> <li>・根拠となる文章にアンダーラインを引かせ、考えを説明する活動を設定する。</li> <li>・意図をもったペアやグループ学習を繰り返し設定する。</li> </ul>
<p>特別支援</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常に必要な言葉を増やし、日記等を書く機会を設け、書く力と伝える力を育成する。</li> <li>・日常生活の様々な場面を想定し、計算、書き取りなどに取り組めるようにする。</li> <li>・個に応じた課題を達成できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活において、発表等を通じた表現活動を充足させる。</li> <li>・毎日の日課帳での振り返りを行う。</li> <li>・タブレット端末を活用する。</li> <li>・具体物の操作を取り入れた体験的な学習をさせる。</li> <li>・小集団学習と個別学習の充実をさせる。</li> </ul>